

「わかるともっとおもしろい！美術のミカタ」の一考察 3

三 桝 正 典*

(2024年12月23日 受理)

A Study of “It’s More Interesting When You Understand! How to View Art” 3

Masanori MIMASU*

Famous paintings where you can discover more interesting things you didn’t know existed when you change your perspective. Starting in 2020, the SNS “JA Mutual Aid Hiroshima (Hiroshima Window - Mikata of Art)” will focus on art museums and museums in Hiroshima Prefecture, focusing on the works held by each museum and the circumstances leading up to its opening, and general topics such as “5W1H”. Introducing three new points of appreciation that will help you enjoy viewing art works by changing your perspective. In this article, following on from the previous article, I have introduced some things there! know! It shows a new meaning for famous works of art.

Keywords: How to appreciate famous paintings 有名絵画の鑑賞方法, 3 points to appreciate 3点の鑑賞ポイント

はじめに

2024年12月2日、広島県大竹市に丸井産業株式会社の創業60周年を機に2023年に開館した「下瀬美術館」が昨年2024年12月2日、フランス・パリのユネスコ本部で行われた授賞式において博物館・美術館部門で最優秀賞のベルサイユ賞を受賞した。世界で最も美しい美術館である。受賞の観点は1. 自然環境と建築の調和 2. カラフルな色彩が明るく軽やか 3. 革新的な創造性と物語性等が考えられるが、その世界で最も美しい美術館が所蔵作品を中心とした様々な美術品を導いてくれるという新しい視点が加わったのである。

視点を変えると知らなかった魅力がみつかる美術作品。2020年よりSNS「JA 共済広島（ひろしまウィンドウ～美術のミカタ）」において広島県内の美術館や博物館を中心に各館が所蔵する作品や開館まで至った経緯を題材とし「5W1H」などの一般的な美術作品の視点を変えながら美術作品をみる楽しさの入り口となるであろう新しい3点の鑑賞ポイントを紹介している。本稿では前回に続き様々な美術館の有名画家の作品の新たなミカタを示したものである。

1. 東広島市立美術館 2021.8.31

東広島市立美術館（図1）は、約43年前の1979年6月1日に八本松の七つ池池畔に「人間と自然の調和のとれた文化の薫り高い芸術文化の拠点」として開館。広島県内で最も古い歴史を持つ美術館です。昨年の2020年11月、東広島市の中心部であり、酒蔵地域や東広島芸術文化ホール「くらら」

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

などがある西条の文化ゾーンへ全館デザインを一新した「新美術館」として移転オープンしました。新美術館は市民の暮らしとともにある芸術文化に出会う接点となり、人・まちを育み、東広島市独自の文化を醸成し、地域と世界へ繋がる文化・芸術の交流拠点（プラットフォーム）としての美術館になることを目指しているのです。



図1 東広島市立美術館（外観）

鑑賞のポイント その1
個性的なコレクションたち



図2 橋口五葉「化粧の女」1918
木版画

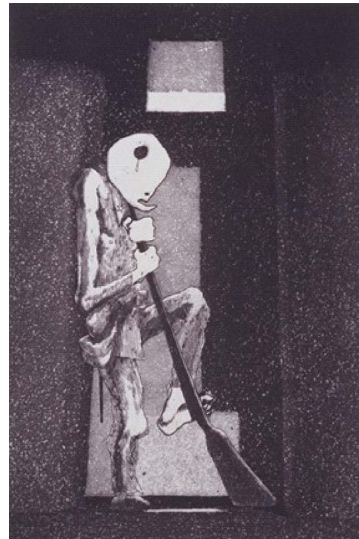


図3 浜田知明「初年兵哀歌」1954
銅版画

東広島市立美術館のコレクションは、「近現代版画」「現代陶芸」「郷土ゆかり」をテーマとして約1,000点を超える美術作品がコレクションされています。特に「近現代版画」のコレクションは西日本の中では質量とも最も充実していると言われ、東広島市立美術館のコレクション全体の70%を占めています。移転開館を記念して開催された特別コレクション展「日常とつながる美術の扉～わたしたちと美術の出会い～」ではジョアン・ミロの「最後の版画」シリーズや橋口五葉の「化粧の女」(図2)、浜田知明の「初年兵哀歌」(図3)など、コレクションを代表する多くの版画作品が披露されました。旧美術館では、常設展示室がなかったため、年に2回開催されていた特別コレクション展でしか見ることが出来ませんでした。コレクションの展示室を設けた新美術館では多くのコレクション作品を鑑賞する機会は増えてくるでしょう。美術館を繰り返し訪ねてみる楽しみの一つとなるのではないでしょうか！

鑑賞のポイント その2

可愛くそして力強く招いてくれる狛犬？獅子？！「阿・吽」

美術館の入り口から入ってまっすぐ進むと大きな大きな陶芸の作品が来館者を招いてくれています。タイトルは「阿・吽(あ・うん)」。地元東広島在住の陶芸家、木村芳郎氏が滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンスで制作した作品です。どことなく滑稽で思わず近づいて見入ってしまうくらい可愛く、でも迫力のある作品(図4)なのです。阿吽の「阿」は仏教の世界では全ての始まり、そして「吽」は全ての終わりを表します。つまり物事の全てを意味しているのです。また神社や寺院の入り口や本殿の正面によく見られる一対の狛犬や獅子は魔除けの効果があるとも言われています。美術館に入ってから最初と見終わって帰る際、地元作家の作品「阿・吽」を是非見てみてください！何か良いことが訪れるのでは？と思います。



図4 木村芳郎「阿・吽」2008 陶土・施釉陶

鑑賞のポイント その3

礼拝堂を感じる神聖な内空間！

美術館の建築デザインは、外観を中心に心地よく作品を鑑賞することができる内空間に特徴が見られます。東広島市立美術館は、その両方のバランスが取れた美しいデザインですが、最も惹きつけられるのが、作品を鑑賞し終わって上階から見渡す入口ホール上部の窓から差し込む光の内空間（図5）です。それはモダニズム建築の巨匠・近代建築の三大巨匠と称されるスイス人の建築家ル・コルビジェの作品であるフランスにあるロンシャン礼拝堂を連想させるほどの神聖な空気を醸し出しています（図6）。そしてその光の空間は美術館の4つの基本理念である「鑑賞（優れたぶんかや芸術にふれる）」「育成（地域の文化や人をはぐくむ）」「創造（個性的な文化を創造し発信する）」「交流（人が集い、交わり、広がる）」を静かに優しく伝えているようにも感じます。



図5 東広島市立美術館 内観



図6 外から見た東広島市立美術館 エントランス上部の窓

東広島市（西条）は、広島大学の移転を機に学園都市化が急速に進んでいった地域です。しかしながらキャンパスの周辺は、山林や田畑が至る所に残っていて、近代と現代とそして未来が混在している地域でもあります。地元作家が作り出して来た伝統から、学生たちを中心とした若者の新鮮な未来への可能性。その視点から作品を見てみても面白い時の流れを感じることが出来るでしょう。是非この機会に移転オープンした新美術館に出かけてみてはいかがでしょうか？今後、楽しい企画展が目白押しです！¹⁾

東広島市立美術館

739-0015 広島県東広島市西条栄町9-1

<https://hhmoa.jp/>

2. ウッドワン美術館 2021.11.30

令和2年（2020）秋、西日本で初となる現代アートの「小松美羽展」を開催し、人口600人の町に1万人以上の来館者を記録し、全国でも注目を集めたウッドワン美術館は、初代館長中本利夫氏の出身地である自然豊かな吉和にある小さな美術館です（図7）。

平成8年（1996）9月に株式会社ウッドワンの所有する美術品約800点を展示、公開するために開館しました。主な収蔵作品は近現代西洋・日本絵画・マイセン磁器・アールヌーボのガラス作品・中国清代の陶磁器・幕末～明治の薩摩焼の大きく5つのジャンルに分類され、充実したコレクションで来館者を惹きつけています。中でもオークション高額落札で話題となった岸田劉生「毛糸肩掛せる麗子肖像」・ルノワール「花かごを持つ女」「婦人習作」・ファン・ゴッホ「農婦」などの作品は今でもコレクションの目玉として美術館の魅力を引き立てています。



図7 ウッドワン美術館外観

鑑賞のポイント その1

美術館の魅力を引き立てる目玉コレクション3点！

ウッドワン美術館のコレクションの中で最も目を引くのが岸田劉生「毛糸肩掛せる麗子肖像」(図8), ルノワール「花かごを持つ女」「婦人習作」(図9), ファン・ゴッホ「農婦」(図10)の3点です。3点の作品の共通するところは、いずれもオークションで落札され、コレクションされているという事です。オークションは公開のために落札価格が作品の内容と共に多くの人の目に直接映ります。落札の経緯が作品の付加価値を高め、一つの物語として来館者に届けてくれるのです。岸田劉生「毛糸肩掛せる麗子肖像」は当時、日本人画家の最高落札額。ルノワールの「花かごを持つ女」「婦人習作」は国内オークションでは過去2位の高額落札記録。そしてファン・ゴッホ「農婦」は、オークション直前にゴッホの真作と認定され、1万円程度とみられた落札価格が6,600万円で落札。いずれも当時のマスコミを賑わせたのです。「凄い」の一言。実物を見に行きたくなりますよね。

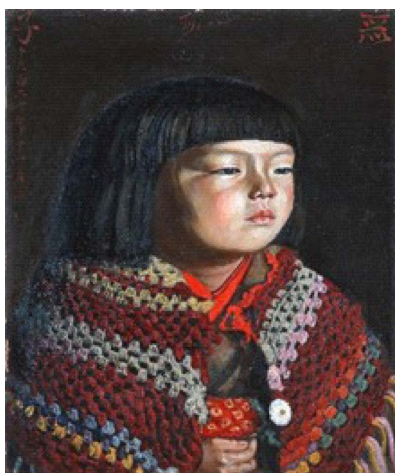


図8 岸田劉生「毛糸肩掛せる麗子肖像」

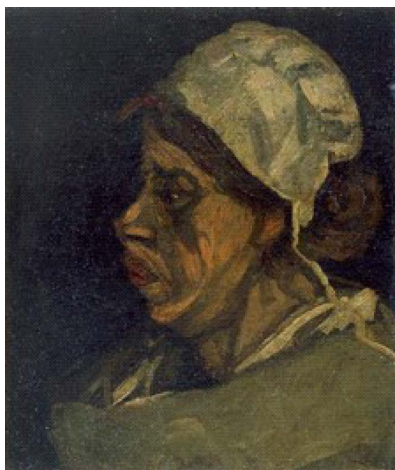


図10 ファン・ゴッホ「農婦」



図9 ルノワール「花かごを持つ女」「婦人習作」

鑑賞のポイント その2

アンティークカップで美味しいコーヒーを！

ウッドワン美術館のマイセン磁器のコレクションは、約200点。西日本最大のコレクションを有しています。本館に隣接する新館（図11）では、アールヌーヴォーのガラス作品、幕末・明治の薩摩焼とともに常設展示されています。その空間では、「色絵神話文双耳瓶」（図12）など初期の東洋趣味から華麗で優雅なロココ主義、歴史主義の作品までマイセン磁器の歴史を辿ることが出来ます。

また美術館併設の喫茶店「カフェ・マイセン」の店内には、マイセンをはじめとするヨーロッパ諸国の美しく繊細なアンティークカップや絵皿等が飾られています（図13）。

喫茶店のメニューの私の一押しは、自然のミネラル豊かな水で作られた「コーヒー」。窓からは、四季折々に吉和の美しい自然を眺めながら、ゆっくりとしたカフェタイムを楽しむことが出来ます。そして何と！カフェに展示されているアンティークカップの中から好きなカップを選んでコーヒーを楽しめるメニューもあるのです！

好みのアンティークカップで歴史の時を体感出来る至福のひと時を過ごしてみてください！



図11 新館展示風景



図12 マイセン「色絵神話文双耳瓶」



図13 カフェ（アンティークカップを選んで）

鑑賞のポイント その3

行かないと体感できない日本の現代アート！ここにあり！

文頭でも紹介しました西日本での初の個展となった「小松美羽展」(図14)が全国からも注目される展開となったのは、いち早く日本の現代アートの魅力的な作家に着目し、館長をはじめ美術館スタッフが一丸となって企画を作り上げていく熱意が込められているからなのです。このような日本の現代アーティストを取り扱った企画は、世界に向けて発信出来る日本ならではの感性と伝統技術が根底にあると感じます。日本の現代アーティストの企画展は「小松美羽展」だけでなく、9月まで開催していた「大村雪乃展」(図15)、2019年に開催した「前原冬樹展」(図16) 2018年に開催した「吉村芳生と吉村大星展」など、ウッドワン美術館に行かないと体感出来ない現代アートとの新しい出会いが詰まっていたのです。現代アートのコレクションも年々増えてきて、ウッドワン美術館の新しい魅力となることは間違いありません！

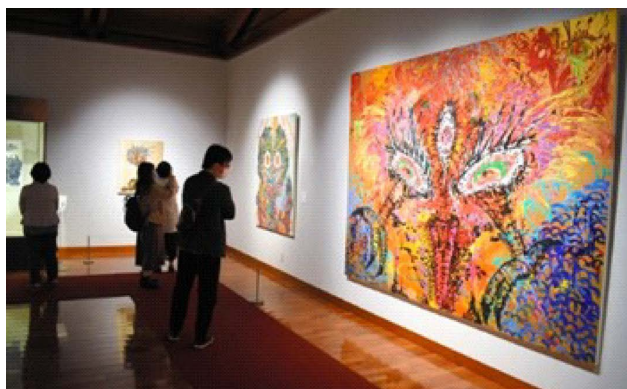


図14 小松美羽展

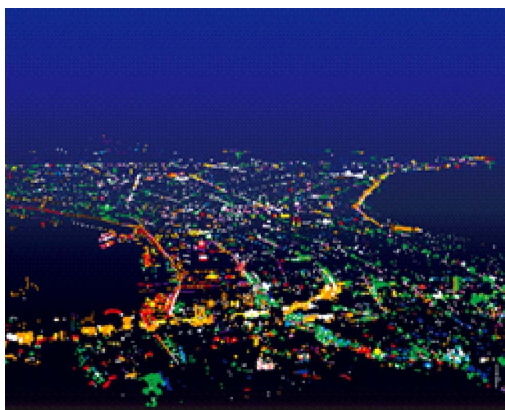


図15 大村雪乃 (函館)



図16 前原冬樹展

ウッドワン美術館のある吉和は私にとっても大切な場所で、私の初期の襖絵8枚（図17）を本堂に常設展示して頂いている「専立寺（能島美緒住職）」があり、お寺と美術館の繋がりのご縁でウッドワン美術館でも2014年に新館エントランスホールで個展（図18）を開催して頂いたのです。お寺はその地域の人々にとって仏像や襖絵などの多くの美術品を鑑賞できた場所でもあり、美術館との対比が身近で感じられ、多くの人に来館頂いた思い出があります。美術館の粋な計らいは、吉和に住む人と共に展開していこうとしている人の暖かさも含めて感じる事が出来た個展でした。

オークション高額落札の目玉コレクション、マイセンのカップに直接触れ、味わうことのできるカフェ、そして新しいアートとの出会い。自然豊かな環境と美しい四季と共に楽しみが広がる山の中の小さな美術館。ゆっくり温泉につかることもできる！オススメの癒しの場所です²⁾。



図17 専立寺本堂襖絵（8枚の内4枚）

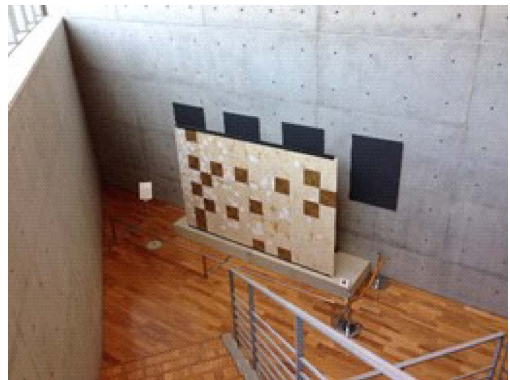


図18 ウッドワン美術館エントランス展示

ウッドワン美術館

738-40-0301

広島県廿日市市吉和4278

<https://www.woodone-museum.jp/>

3. 頼山陽史跡資料館 2022.11.30

頼山陽史跡資料館（図19）は、広島市の中心部（旧日本銀行の裏）にあります。その場所は江戸時代には頼家の武家屋敷があった場所です。その場所には国の史跡に指定された頼山陽が21歳の時に脱藩騒動を起こし、屋敷内の一室に幽閉された「頼山陽居室」もあるのです。

頼山陽史跡資料館は、頼山陽をはじめとした江戸時代の広島歴史と文化に関する様々な資料の展示・公開と調査・研究を行う施設として1935（昭和10年）に建設、原爆によって大半の所蔵品は焼失したものの、その後1995（平成7年）に立て替え、2015（平成27年）にリニューアルオープンし、今日に至っています。



図19 頼山陽史跡資料館（入り口）

鑑賞のポイント その1

右室には頼山陽の物語

左室には頼山陽他の作品・資料

漢学者・文人であった頼山陽の生涯の物語や頼山陽に関わる人たちの作品や資料は鑑賞する人にとっては一般的な美術館や博物館とは少し違う当時の歴史や文化、人物像を身近にに触れることが出来ます。入り口から入って右側の展示室（図20）には天下に認められた名著「日本外史」22巻に至るまでの頼山陽の生涯（少年期～青年期～京都時代）が分かりやすく展示しています。



図20 頼山陽史跡資料館（右室）

また左側の展示室（図21）には資料館所蔵の作品や資料の展示の他、書画・名刀・南画・蜷人形などの企画展や特別展が開催されています。今後の開催予定は以下の通りです！

・企画展「青年頼山陽」10月20日（木）～12月11日（日）

- ・特別展「今に息づく南画の精随～南画精華特別編～」
令和5年1月14日（土）～2月26日（日）
- ・特別展「ひな人形と春の書画展」3月2日（木）～3月31日（金）



図21 頼山陽史跡資料館（左室）特別展「今に息づく南画の精随～南画精華特別編～」

鑑賞のポイント その2

美しい中庭！

頼山陽史跡資料館の施設内には足立美術館庭園や大徳寺興臨院庭園を手がけた現代を代表する造園家の中根金作によって作庭された中庭「文人庭」（図22）があります。敷地内の「文人庭」はいくつかの見所があるが、絵画のように美しく目の前に映し出されるのが、資料館をはいって真っ直ぐにガラス越しに見える「坪庭」です。5つの石によって構成された枯山水で、狭い空間に空に向かって伸びゆく広がりを作るために竹を配置し、演出している感じが随所に見られます。頼山陽をはじめとする江戸時代中期から後期の多くの文人たちは、松・竹・梅・桐などの植物を取り入れた作庭を楽しんだと言われ、資料館の「文人庭」もその趣を取り入れた素晴らしい作品といって良いのではないかと思います。その他茶室から臨む蹲踞の庭、資料館と居室を取り巻く自然石の敷石「草の延段」など、小さい庭ではあるものの見所満載です！

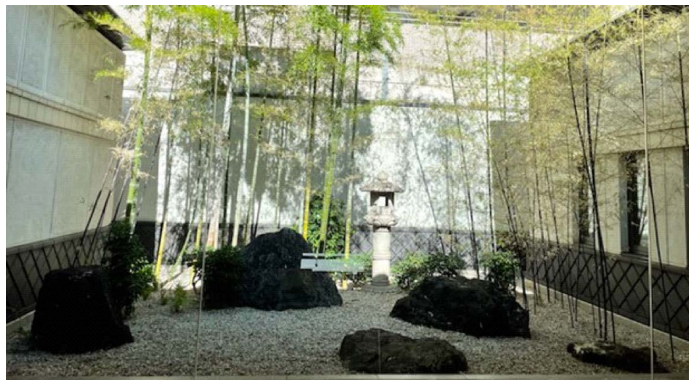


図22 文人庭

鑑賞のポイント その3

ベストセラー「日本外史」を生み出した「頼山陽居室」！

頼山陽は1797（寛政9年）に1年間遊学した後、1800（寛政12年）に脱藩し、京都に向うが、直ぐに連れ戻され、屋敷の離れに幽閉されました。その離れが現在の頼山陽居室（図23）になります。原爆で焼失しましたが、1958（昭和33年）に復元された建物です。そこで5年間幽閉されますが、その間ひたすら文筆活動に専念し、幕末の志士たちに大きな影響を与えた歴史書「日本外史」の草稿をまとめ上げたのです。復元された建物ですが、居室空間には頼山陽が執筆に励んだ魂の息吹を感じるのではないかと思います。



図23 頼山陽居室



図24 庭内 クロガネモチ



図25 頼山陽居室 襖絵 右「地」左「天」

頼山陽史跡資料館にはもう一つ大切な見所があります。それは庭園内に生息している1本の被爆樹木「クロガネモチ」(図24)です。被爆によって根株だけを残して焼けたが、5年目の昭和25年に、不思議にもその株が芽を吹き奇跡的に再生した逸話があります。その後もクロガネモチは力強く育ち続け、今では高さ5メートルを超えて天高く青々と美しく聳え立っているのです。私は、この奇跡のクロガネモチが幽閉されながらも歴史に残る「日本外史」を世の中に発表した頼山陽と重なる所を感じ、その感動を居室内に吹き込みたく室内の襖8枚に「クロガネモチ」(図25)を描かせて頂きました。今なお被爆の影響が残る根から幹の部分「地」右側に4枚、青々と生命感息吹く青葉を「天」として左側に4枚表現しました。有り難いことに現在資料館で所蔵して頂いています。機会ありましたが是非ご覧ください。

広島市内の中心に所在しながらも、心静かに癒やされる不思議な安らぎの空間を感じることができる「頼山陽史跡資料館」是非この機会に訪れてみてください³⁾。

頼山陽史跡資料館

730-0036 広島市中区袋町5-15

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/raisanyou/>

引用文献・図版

- 1) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～東広島市立美術館』
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/1974/>
- 2) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～ウッドワン美術館』
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/2212/>
- 3) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～頼山陽史跡資料館』
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/2738/>